

PD2 「内視鏡的逆行性胆管膵管造影の看護師の役割」

市立釧路総合病院 内視鏡室 ○石田吾抄 北村幸恵 須藤真代

佐藤紀美子 山岸祥代 菅原佐依里

辻寛子 榊原卓也

【背景・目的】

A 病院では内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (以下、ERCP) を年間約 350 件行っている。

検査のみならず治療を有する処置がほとんどを占め、それに伴い患者へ深い鎮静と処置時間の延長を要している。基礎疾患を有する高齢者や全身状態が不安定な患者に対して緊急 ERCP を行う機会があり、より安全な内視鏡検査・治療の体制作りが求められていると考え、ERCP における看護師の役割について検討したため報告する。

【方法】

A 病院では通常、医師 2 名と看護師 3 名で ERCP を行っている。看護師の役割分担は配置 B が薬剤投与とバイタルサイン確認、看護記録。配置 C は患者の頭側に立ち、酸素投与、サクション、検査中の患者の気道閉塞がないよう観察。配置 D は使用デバイスの準備、医師の間接介助、としている。2019 年 4 月に内視鏡室スタッフ 11 名に対し、BCD それぞれの役割についた際、『検査開始前』『内視鏡挿入直後』『鎮静剤投与後』『検査終了後』に分け、特に注意、観察していることについて自由記載アンケートを実施し単純集計した。

【倫理的配慮】

本研究は A 病院看護部倫理検討委員会の承認を得て実施した。

【結果】

スタッフが観察している項目はバイタルサイン、体動、呼吸状態、鎮静レベル、表情、点滴ルートに分類された。どの配置においても看護師はバイタルサインと呼吸状態を常に注意しており、鎮静剤使用後からは、体動や患者の表情からも鎮静レベルを判断している。配置 C は常に患者の全身状態を観察していることと、内視鏡挿入直後から B、D より先に体動と呼吸状態に注意していた。点滴ルートに関しては、薬剤投与を担う B が C、D よりも注意していることがわかった。

【考察】

アンケート結果から、看護師はどの配置であっても、患者の状態把握に努め、急変時に迅速に対応できるように心がけていたと考える。配置 D は内視鏡挿入直後の体動や表情の観察について、BC より低い結果であり、これは安全に医師の間接介助ができるように意識を集中しているためと考えられる。また配置により注意、観察できる項目には差があるため、役割を理解し、観察して気づいたことを発言と報告で共有する必要がある。アンケート結果を元に、看護師 BCD の役割が明確になったことで、内視鏡室へ配属となったスタッフの指導に役立てることができている。

夜間や休日に行われる緊急 ERCP では、以前は呼び出し内視鏡スタッフを 1 名と ER または病棟の看護師で行っていた。臨時検査からそのまま治療処置へ移行する例が増えていた為、全身状態が不安定な患者に対し迅速な検査介助が求められ、看護師の役割を理解している内視鏡室スタッフを 2 名の体制とした。その際は、1 名が BC の役割を担い、1 名が D の役割を行っている。実際に看護師 2 名で緊急 ERCP を行うのは年間約 9 件である。

検査中の急変時対応に関しては、看護師の行動フローとして看護師 B は救急カートの移動と記録、C は挿管などの処置介助、D は内視鏡システムの移動と関連部署への連絡と応援要請を行う事とした。実際には幸い患者の急変はなく検査・治療を行えているが、急変時シミュレーションを通して一人一人対応ができるよう目指している。

【結語】

内視鏡検査・鎮静剤等による偶発症を予防・早期発見するために看護師はそれぞれの配置によって患者を注意深く観察する事ができていた。

(利益相反：無)

連絡先：市立釧路総合病院 内視鏡室

TEL：0154-41-6121